

＝ 3 / 2 4 ベトナムの枯葉剤被害から戦争を知る ＝ － ドクさんとともに考える平和の集い －

Mr. Nguyen Duc 招請委員会
副委員長 中村 吉政

3 月 24 日、今回の最大の行事である平和の集いは、大阪府、大阪府教育委員会、大阪市、大阪市教育委員会、在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館、連合大阪の後援で開催された。来日 6 日目を迎え、ドクさん一行も多少お疲れぎみです。

あいにくの天候で集会の前から本格的な雨となりましたが出足もよく、午後 2 時半から準備に着いていた実行委員もほっと一安心の様子でした。

午後 6 時から「ベトナム戦争」のビデオが上映され、会場の両通路には枯葉剤被害者のパネルが貼られ、入口でもベトナムの物産や、NPO MOA のカンパグッズコーナーが設置されるなど雰囲気作りがされました。

大阪のシンボルといわれる中央公会堂はリニューアルされて座席もゆったりとしておりなかなかの座り心地です。

午後 6 時 30 分、関西地区生コン支部による太鼓の響きで幕が開きました。一階、二階席に埋まった参加者の熱気に後押しされ力が入ったのでしょうか？ 大太鼓が台座から滑り落ちるハプニングが発生し、あわてて緞帳が降ろされ客席は息を殺して見つめていました。

若干の時間が過ぎ、再度の挑戦でオープニングが終わりました。

司会は小川慶子さん（NPO MOA）で招請委員としてこれまで力を注ぎ、来日後も日程の微調整や、細かな気配りで、ランさんや、タンさん、チュイさんにとってなんとも心強い人です。開会の前、小川さんは心臓がバクバクするといわれていましたが、私にはそのようには見えませんでした。

小川さんの開会挨拶の後、主催者を代表して NPO MOA の加来洋八郎代表理事から次のような挨拶がありました。

加来洋八郎代表理事挨拶（要旨）

「ベトナムは、フランスの支配を受け、その後アメリカの支配を受けました。ベトナム民衆は、アメリカの支配に対して立ち上がり、小国が大国を打ち破り、自由を勝ち取りました。侵略戦争をしたアメリカが枯葉剤被害者に対する責任をとらない。私たちは、ベトナム戦争の実相を知ることが大切です。」

「ベトナム枯葉剤被害者がアメリカで訴訟を起こしていますが、枯葉剤の影響により、ベトナム・ドクさんをはじめ、多くの被害者がいます。さらに、生まれおちることができなかつた子どもたちもいます。アメリカの戦争犯罪を許さない、イラク戦争をやめさせるために、お互いがんばりましょう。」

続いて在大阪ベトナム社会主義共和国総領事の Nguyen Hong Phong 氏から来賓挨拶が行われました。

Mr. Nguyen Hong Phong 総領事挨拶（要旨）

「このような挨拶の場を設けていただき関係者に対して心から感謝を申し上げます。私たちは、平和と友好の要求をしていますが、アメリカでは受け入れられませんでした。これから枯葉



剤を作った会社に訴訟を起こす予定です。平和を愛する人々に支援を呼びかけます。」

続いて 5 名の方からアピールを頂きました。グエン・ティン・ビン氏の推薦でハノイからベトナム枯葉剤被害者協会副会長が集会に参加され次のような挨拶を頂きました。長文でしたので一部割愛して報告します。

Do Xuan Dien 氏挨拶（要旨）

「ご列席の皆様 枯葉剤被害者およびベトナム枯葉剤ーダイオキシン被害者協会を代表いたしまして、この交流会に参加させていただいた 特定非営利活動法人 南大阪とアジアの平和友好のかけ橋（略称 NPO MOA）に心より感謝を申し上げますと同時に史上一番長く、規模の一番大きい化学戦争を体験させられた「ーベトナム枯葉剤被害から戦争を知るー」というテーマについて意見交換するため、本日ご参加くださる皆様に、感謝申し上げる次第です。

ご来場の皆様ベトナム戦争中に米軍が通常殺傷兵器だけでなく、広大なジャングル・山地、農地、生活用水、環境などを破壊するため、化学兵器を使用しました。1961年 8月10日（農民の手）といわゆる非常にやさしい合言葉の下で、米空軍ヘリコプターが飛行して、国道 14号沿いに枯葉剤散布作戦を開始しました。1965 - 1971、この化学戦争の規模が拡大され、米



軍が 4,500 キロの化学物タンク内臓の C 123 輸送機を用い、コントロール出来ない地域に散布しました。散布後帰港までパイロットは、残る化学物を捨てなければならないし基地到着時、また飛行機を綺麗に掃除しました。このように米軍がベトナム地域という南ベトナム民族解放戦線の支配地域、田畑、そして空軍基地化学毒質の廃棄により基地周辺倉庫に保存されました。これらの毒質により、人間と耕作が影響を受けました。

1961 - 1971 の 10 年間にわたり、米軍が南ベトナムにダイオキシンを 400 キロも含める 8 千万リットルの化学毒質枯葉剤を散布しました。ダイオキシンは人間が見つけた毒性の非常に強い物質です。1 ナノグラムでガン、出産障害などが人間に引き起こされ、次の世代に遺伝します。数十ナノグラムではすぐに死亡します。従って、ダイオキシンは戦争終結後 30 年も経った現在、約 480 万のベトナム人が感染しました。その中で数十万人の戦争中に直接枯葉剤被害者がガン、難病などで死亡しました。多くの女性は不妊症などと奇形児出産にみまわれました。彼らの子供、孫（第二世代、第三世代）の数万人は先天性奇形で生まれ、深刻な枯葉剤の後遺症により数百万人の被害者と先天性奇形児が病氣と貧困に悩んでいます。

枯葉剤被害者に対する国内外組織・個人の補助を集める事を目標とした枯葉剤被害者補助基金が 1998 年 7 月 24 日に設立されました。約 30 万の被害者は診断・治療・能力回復整形・教育・職業訓練・生活レベル向上、仕事のための設備提供・車椅子提供・奨学金・家提供と色々な支援を受けました。しかしながら、社会援助は大勢の被害者へ小さな希望を与えるには、まだ十分対応できていません。そして、枯葉剤の後遺症を癒すという同じ目標を持っている被害者、科学者、社会ボランティアは積極的に集まり、運動委員会を作り出した後、2004 年 1 月 10 日ベトナム枯葉剤被害者協会を成立しました。ベトナム社会主義共和国 元副国家主席は、名誉会長でありベトナム人民軍隊政治総局 Dang Vu Hiep 元副局長が会長です。

2004 年 1 月 30 日協会は、枯葉剤被害者と共に原告側として米国ニューヨーク州ブルックリン区の連邦地方裁判所に 37 の化学毒物製造会社を訴訟しました。

以下この訴訟について簡単に説明させていただきます。

・2004 年 1 月 30 日ベトナム枯葉剤ーダイオキシン被害者協会および 3 訴訟当事者は申告を

提訴しました。

・2004年3月18日、裁判前会議において、J.B.Weinstein 裁判官は弁護士が原告側の証拠・被告側の反弁意見をさらに堅持する必要がある、6ヵ月後裁判を開き、その時この申告を取り上げるか棄却するか決定すると宣言しました。

実は2004年9月この訴訟が行われましたが、何回かの停止によって2005年2月28日裁判が行われ、2005年3月10日 Weinstein 裁判官が判決を下しました。ご存知のように、Weinstein 裁判官はベトナム枯葉剤被害者の訴えを棄却しました。

これは不合理・不公平な判決であります。不合理というのは90年代より米国化学医寮院は枯葉剤が人間の体に引き起こされる13病状と関係があると認めたことであります。1996年、クリントン元大統領が陳謝し他の症状を認め、米帰還兵省の大臣がベトナム戦争参戦米帰還兵に対する補償政策を指示しました。不合理と不公平というのは米国政府がベトナム戦争参戦米帰還兵の中、枯葉剤被害者がいると承認したことです。ニュージーランド政府は毒に盛られたベトナム戦争参戦帰還兵に陳謝しました。毒物を散布した人はその後遺症が解らないわけがありません。この判決が数千万人のベトナム枯葉剤被害者へ戦争が残した深刻な後遺症の補償権を棄却する不当なものです。この判決は無責任であり、ベトナム被害者に苦しみ・損失を及ぼした化学毒物製造・使用の罪悪を許すことと同じと認められます。

フランスのパリで行われたベトナム枯葉剤後遺症に関する国際会議は裁判を求めるベトナム枯葉剤被害者のたたかひに対する物質的および精神的な支援を続けると声明しました。本日この訴訟・ベトナム人、ベトナム環境に対する枯葉剤の深刻な後遺症の改善事業のため、特定非営利活動法人 南大阪とアジアの平和友好のかけ橋 (NPO MOA) の皆様および世界中の平和を愛する人々のご支援を、被害者およびベトナム枯葉剤被害者協会よりお願い申し上げます。



ここで、わが協会の一つの会議における元国家副主席、ベトナム枯葉剤・ダイオキシン被害者協会の名誉主席である Nguyen Thi Binh 氏のご意見を引用させていただきます。「毒物散布飛行機に乗っていた人の伝染・病状が認められることに対して、頭上に毒物が散布され、毒物を含んだ食べ物を食べ、毒物を含んだ飲み物を飲んだ人々の被害が認められないことがあるわけがない」および「私たちは米国製造会社を相手取り枯葉剤被害者訴訟が米国も含める世界中の公平なマスコミのご理解・ご支援によって、必ず勝つと信じております。

皆様、枯葉剤被害者に人間の最大の苦しみがもたらされていることに、良識ある人々の人道的援助をいただいている事に対して、心から敬意を表します。今一度、特定非営利活動法人 南大阪とアジアの平和友好のかけ橋 (NPO MOA) の実行委員会、参加団体へ心より感謝を申し上げます。戦後30年が経過した現在もベトナム枯葉剤被害者に肉体的・精神的な苦しみがまだ続いている状況について話させていただき、感謝を申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。」

ベトナム語での挨拶、通訳とかなりの時間でありましたが、枯葉剤被害の現状が報告されました。

続いてツーズー病院で副院長をされている Thuy さんから挨拶がありました。

Dr.Huynh Thi Thu Thuy 副院長報告 (要旨)

「ツーズー病院には年間66,000人の患者が通っています。そして44,000人の赤ちゃんが生まれますが、そのうち700人が障害をもって生まれます。また、生まれてすぐに死ぬ子もいま

す。

又、ベトナム戦争で使用されたダイオキシンは、ベトナムのような光の強い、雨の多い地域では三年でなくなるが、体内に入った場合は数十年間存在する。世界のダイオキシン被害のすべての障害がツーズー病院で発見されていて、その障害は、精神的障害、手足がない、関節が曲がらない、足の長さが違う障害、耳や目のない障害、結合双生児の障害、頭や口が変形している障害に分かれ、子どもは母乳から感染する。

と、スライドを利用しての説明でしたから、とてもショッキングな報告がありました。Thuy さんのお話の一つ一つは、日本の中にいけば思い描いても想像すらできないものでした。

インパクトのある、集会のタイトルに沿う重みあふれる発言でした。だからこそ、最後まで立つ人もなく、ざわつきもないすばらしい集会になったのだと思います。

続いて財団法人大阪国際平和センター理事長の岡本知明さんから挨拶が行われました。

岡本さんは総評大阪地評の議長として活躍をされ独特の声が私の印象に残っています。

岡本知明大阪国際平和センター理事長(発言要旨)

「2003年8月5日、ピースおおさかヘグエン・ティ・ビンさんを招きました。ビンさん8月6日に広島へ行くことになっていました。どういう思いで広島に行くのかと聞きました。ビンさんは言いました。『ベトナム戦争が終了し、30年が経過していますが、枯葉剤の影響が後を絶ちません。ハンディキャップをもった子どもがたくさんいます。日本は、敗戦後60年近くたちますが、原爆被害者は二世、三世と続いています。広島では、イラクで劣化ウラン弾の調査をしている人に会うことになっています。』2003年の年末、私は、ベトナムを訪問し、現地の枯葉剤被害について聞きました。私は、原爆、劣化ウラン弾、枯葉剤といった大量破壊兵器、化学兵器を使用したアメリカをはじめとする強国に対して、被害を受けた者が手を携えていかなければならないという趣旨から、2004年9月に国際シンポジウムを開催しました。大きな傷跡、消せない傷跡をピース大阪から発信しようというものでした。



ピースおおさかの立場は、大阪への50回を超える爆撃、広島、長崎への原爆投下、沖縄での悲惨な地上戦によって尊い命が失われました。また、アジアの人々に多大なる犠牲を払わせました。日本はベトナムを後方支援基地・食料供給拠点とした結果、200万人のベトナム人を餓死させました。今日、軍縮は進んでいません。戦争のない世紀を目指してきましたが争いが絶えません。戦争の実態を正しく伝え、平和のために努力していかなければなりません。」と、ベトナム反戦闘争を闘った経験も踏まえアピールがされました。

続いてベトナム平和村リハビリテーション課長のDr. Nguyen Thi Phuong Tanさんからビデオを交えての報告がありました。

Dr. Nguyen Thi Phuong Tan リハビリテーション課長の報告(要旨)

「平和村には、障害をもった60人の子たちがいます。スタッフは30人です。小さな施設のため、保護を受けられない子が他にもたくさんいます。300万人の枯葉剤被害者がベトナムにはいます。枯葉剤被害を受けた子どもの生活を見てください。」

～ビデオ上映～ このビデオには強烈なショックを受けた。日本人には、ドクさん、ベトさんというだけで、ベトナム戦争と直結するのだが戦後30年の今尚、平和村の中にはダイオキシンの被害者である子どもたちがいるのだという事実。会場の多くの人は、息を飲み、瞬きもせず食い入るように見つめていたのが印象に残っています。

タンさんは、平和村では、個々の子どもに応じた教育方法を検討しています。親の顔を知らない子どもたち。子どもたちは、互いに支えあいながら生活しています。子どもは、大きくなると自我に目覚めます。・・・

最後に、Nguyen Duc さんの報告でした。

Mr. Nguyen Duc 報告(要旨)

「生まれたときから平和村で生活していて、今は「ツーズー病院」で仕事をし、平和村ではタン課長の手伝いをしている 24 歳のドクさんが、最後にアピールした。ドクさんの兄のベトさんは今もベッドの上で「植物人間」の生活をしている。ドクさんは、枯葉剤被害者の子どもも普通の子どもの同じ夢を持っていると言い、両足のないある少女の話をした。

「今回、日本に来た目的は、大阪の人々との交流、枯葉剤被害者支援とイラク戦争反対に積極的な参加を呼びかけることが目的でした。

私は、平和村に勤めながら、ホーチミン市の赤十字ボランティアのメンバーとして、山岳の貧しい人々に菓を配る活動などもしています。

私はずっと平和村に住んでいますが、もっと深刻な状況にある子どもたちがいます。枯葉剤の影響による障害者がいます。

それは戦争があったからです。

戦争がなければ、どんな世界になっていたか、みなさん考えたことがありますか。愛する人を失うことなく。枯葉剤に苦しむこともなく。いつになったら、戦争ということばがなくなるのでしょうか。」

とアピールが行われました。

続いて応援メッセージと題して「浪速の巨人」と自称する趙博さんの超ミニコンサート
大きな体から迫力のある歌は、枯葉剤被害の実態を知り重い気分の会場を和ませてくれました。ギターの弦が切れるハプニングがありましたが浪速の巨人はもろともせず集会に華を添えてくれました。

続いて参議院議員の喜納昌吉氏のビデオによるメッセージが始まりました。今までの集会にない試みで、招請委員の岡地、北村両氏が議員会館に向いて作られた価値ある映像です。ベトナム戦争時、沖縄は兵站基地として、武器、兵士、食料など、軍事物資が沖縄の基地からベトナムに送られ、また、多くの負傷兵が沖縄に送られてきたことが話されました。アメリカによって「太平洋のかなめ石」と位置づけられた沖縄は、戦後 60 年が経過した今も、湾岸戦争、アフガニスタン、イラク侵略戦争と戦時下に置かれていることが伝えられました。



集会も最後になり、ドクさんへのインタビューの時間。招請委員があらかじめ質問事項をまとめていたのだが時間の関係で縮小され、その中でドクさんは南恩加島小学校での子どもとのふれあいが印象に残るといわれました。その後、共同声明がドクさんによって、日本語で朗読され全員が確認をして集会を終わりました。

共 同 声 明

私たちベトナム枯葉剤/ダイオキシン被害者協会ならびにツーザー病院と特定非営利活動法人 南大阪とアジアの平和友好のかけ橋は、本「—ベトナム枯葉剤被害から戦争を知る—ドクさんとともに考える平和の集い」において以下のことを訴えます。

アメリカは 1945 年 8 月に広島・長崎へ原子爆弾を投下しました。

被害の規模は凄まじく 30 万人を超える犠牲者を出したとも言われ、被爆の悲惨な後遺症は 60 年間も続いています。

またアメリカは、ベトナム戦争でも 8,000 万リットルにも及ぶ大量の枯葉剤(ダイオキシン 400 キログラムが含まれる)を撒布しました。その結果、戦後 30 年が経過する今でも、ベトナムでは深刻なダイオキシンの影響による被害が残り、多くの人々・子どもたちが苦しんでいます。

そしてアメリカは、イラクとアフガニスタンにおいて劣化ウラン弾を使用しました。

それぞれの国で劣化ウラン弾による被曝の影響が報告されています。すでに戦争の悲惨な後遺症が現れており、その後遺症は長期化する様相を呈しています。

アメリカ政府は、日本・ベトナム・イラク・アフガニスタンと大量破壊兵器を唯一使用し続けた結果、多くの被害者を出し且つ悲惨な後遺症を続出させていることに大きな責任を持たなければなりません。

そして私たちは、現在イラクに駐留するアメリカをはじめとする全ての軍隊が直ちに撤退するよう要求します。

私たちは、多くの人々を殺戮し後遺症に苦しむ多くの人々・子どもたちを生み出すアメリカのイラクでの戦争に強く反対するとともに、世界の全ての戦争政策を止めることを要求します。

私たちは、世界の人々が力を合わせ、悲惨な戦争に反対することを望みます。

私たちは、平和のために最後までともにたたかいます。

2005 年 3 月 24 日

- ベトナム枯葉剤/ダイオキシン被害者協会
- ツーザー病院
- 特定非営利活動法人

南大阪とアジアの平和友好のかけ橋

(略称)NPO MOA